

令和8年度第1回富谷市地域公共交通活性化協議会 会議録

開催月日	令和8年5月19日(火)							
開催時刻	13時30分			閉会時刻	15時00分			
開催場所	富谷市役所3階 305会議室							
議 事	(1) 富谷市地域公共交通計画における施策の実施状況及び評価指標について							
出席の状況 (○出席者・×欠席者)								
1	徳永 幸之	○	2	小山 和恵	○	3	新倉 功也	○
4	西城 昭子	○	5	佐藤 雅之	○	6	岩谷 亮	○
7	千葉 勝義	×	8	堀籠 優	×	9	鈴木 俊介	○
10	多田 康則	○	11	中村 力	○	12	門間 とも子	○
13	郷古 直子	○	14	後藤 久美子	○	15	相澤 瑞男	○
16	片山 友美	○	17	増田 恵美子	○	18	戸根 美津子	○
19	菅原 順子	○	20	大内 理恵	○	21	高橋 隆美	○

議 事 内 容	
<p>◎ 委嘱状交付 (13:30)</p> <p>1. 開会 (13:35~)</p> <p>2. 市長あいさつ</p> <p>3. 委員紹介</p> <p>4. 議事 (13:45~) 議長: 徳永会長</p> <p style="padding-left: 40px;">(1) 富谷市地域公共交通計画における施策の実施状況及び評価指標について</p> <p style="padding-left: 80px;">[事務局から説明]</p> <p>5. その他</p> <p>6. 閉会 (15:00)</p>	

記録: 企画政策課交通政策推進室

令和8年度第1回富谷市地域公共交通活性化協議会

日時：令和8年5月19日（金）13:30～15:00

■質疑応答

委員等名	内容（要約）
（1）富谷市地域公共交通計画における施策の実施状況及び評価指標について	
原町内会長 相澤委員	デマンド交通の運転手をしている。デマンドの運行についてこの場で意見を述べてもよいか。
徳永会長	この場で意見を出していただいて問題ない。デマンド型交通や、市民バスの再編にあたっては、協議を調えるための「地域交通会議」という場もあるが、この「地域活性化協議会」ではその全てを含め地域公共交通計画という形で富谷市として推進していくものであるため、個別の意見や要望があれば遠慮なく出していきたい。
原町内会長 相澤委員	本協議会の開催頻度は。
事務局	各年度の実施状況を報告させていただく場として、基本的には年1回を想定している。
原町内会長 相澤委員	都市型自走式ロープウェイの調査・検討が進められているが、地下鉄・BRTも引き続き視野には入れていくのか。
事務局	現在、都市型自走式ロープウェイについて調査・検討を進めているところだが、地下鉄・BRTについても引き続き検討は進めていく。
原町内会長 相澤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・デマンド型交通の改善について （関連施策：【基本方針2】⑥デマンド型交通の再編） <p>デマンド型交通は利用者が地区で限定されており、対象地域外においても、バス停まで行くことが大変な方もいる。高齢の方にとってデマンド型交通は非常に有効であるため、ぜひ拡大していただきたい。北部・東部の区域運行撤廃（全域運行）、利用対象者の検討（例：75歳以上は誰でも利用可能とする等）、運行便の時刻や本数の見直しが必要だと考えている。</p> <p>3点目の運行便の見直しについて具体的に、デマンドの車両は不登校特例校のスクールバスでの送迎を8時半頃に終える。8時半から9時までは待機時間であるため、例えば8時40分、8時45分に黒川病院行きや富谷中央病院行きの便を検討いただきたい。</p>
事務局	実際の運行について、見直していくべき事項であると捉えている。今後、運行体制等について社会福祉協議会も含めて協議し、最善の方法を検討してまいりたい。
鷹乃杜町内会長 門間委員	<ul style="list-style-type: none"> ・市民バスの再編について（関連施策：【基本方針2】⑤市民バスの再編） <p>ユートミヤがオープンしてから、市民バスの再編に市民は大変喜んでいる。接続が増え移動が便利に感じている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イオン乗継の利用増加について（関連施策：【基本方針2】⑤市民バスの再編） <p>バスの利用が増えることはいいことであると感じる一方で、バスが利用者で</p>

	<p>満杯になるケースを懸念している。イオン乗り継ぎの利用者も、年々増加しているとのことで喜ばしく思うが、満杯になった際、市民の間でコミュニケーションを取って譲り合うことがある。鷹乃杜には3,000人近くの住民がいる。もっと市民バスを使っていたきたいが、広げていいものか。</p> <p>交通の会議は非常に進歩的で前向きな会議である。この場で学ぶことが多いため、私自身も動く足として市民の方々に伝え活用していただき、引き続き勉強してまいりたい。</p>
事務局	<p>日頃より門間委員には、バスの利用についてPRをしていただいていることに感謝申し上げます。市民バスの乗車人数、利用者の増加に関する対応については、お時間をいただい見直しを進めてまいりたい。施策の14ページについて、今年度の取組として、市民バスの乗客数を把握する乗降カウントシステムを10月より稼働開始予定である。こちらも活用しながら実態把握に努めていく。</p>
徳永会長	<p>他市町村の交通会議にも出席しているが、これほど具体的な利用実態は大変参考になる。再編等の変化に伴い、現場で起きていることも変化するが、どのように対応していくかが重要となる。この協議会は年1回であるが、別途開催される地域公共交通会議等においてしっかり議論をしていただき、改善すべきところを改善していただきたい。</p> <p>運行するにあたっては、地域の交通事情があるため交通事業者や利用者にご理解をいただい折り合いのつくところを探っていかなければならない。コミュニケーションをしっかりと取りながら、進めていただきたい。</p>
杜乃橋町内会長 郷古委員	<p>・アプリ活用等の周知について (関連施策：【基本方針3】⑬モビリティマネジメントの実施)</p> <p>デジタルに苦手な年代の方も多。昨年10月に新たに導入されたバスロケーションシステムなど、アプリの活用が増えている。周知においてはそのような方に対する工夫やフォローが必要である。</p>
事務局	<p>ご高齢の方など、スマホがなかなかうまく使えない方もいる。改めてその点も含め見直してまいりたい。</p>
宮城交通 鈴木委員	<p>・資料2の4ページ、施策②において、民間路線バスに対する施策が謳われている。乗り継ぎ運行は確かに実施しているが、これは10年前から行っていることであり、新たな取組ではない。また、補助額の拡大については、運賃改定は宮城交通が収支悪化によりやむを得ず実施の判断をしたものであり、補填は協定で元から定められている事項。ここに富谷市としての公共交通計画としての主体性は無い。評価を「C」とするのが妥当ではないか。</p> <p>市の計画に基づく交通施策の展開としては、総合交通戦略の策定段階から数えると8年ほどになる。私も毎回会議に出席し発言しているが、市では、市民バスの施策は展開されているが、残念ながら宮城交通に対する施策は取り組まれている。運転士不足は深刻。明日ハンドルを握るドライバーを揃えるのに苦労している状況。民間が自助努力でできる限界は既に超えている。運転士の平均年齢は60歳であり、採用を進めても毎年一定程度、定年でまとまった数が辞めている。また、燃料の高騰により走行すればするほど赤字が拡大し、燃料確保については</p>

	<p>全国バス会社において目途が立っていない状況である。</p> <p>地域公共交通計画は市民の皆さんとの約束事である。これまでの方針を転換していただきたい。路線バスの維持確保に向けて具体的な施策の展開をお願いしたい。</p>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・施策②進捗の評価について <p>令和7年度における利用者が増加していること、市民バスの再編によりイオン富谷店への発着回数が増加したことから「B」評価としている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共交通としてのあり方に関するご意見について <p>日頃よりご意見をいただいている路線の維持確保について、宮城交通と調整を図ってまいりたい。運転士不足、路線の維持確保について具体的な案をお示しいただきながら話を前向きに進めていくことが大事であると捉えている。</p>
原町内会長 相澤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・民間路線バスの課題に関する国・県への質問 <p>運転士不足等は、富谷市に限らず全国的に課題である。この場で国や県においてどのような対応策があるのか伺いたい。</p>
徳永会長	<p>基本的に民間バスの路線に関しては、公共交通の幹線として位置付けているため、それが市民生活を支える上で重要であるという認識のもとで、より使いやすい、便利なものにしていく必要がある。実際に、市の主体的な取組としては、乗り継ぎ割引の制度のみであることは事実である。また、乗り継ぎ利用者の増加については、目的地まで宮城交通路線バスを利用していただく方が、乗り継ぎ利用に移っているという可能性もある。市と宮城交通においては意見交換をしていただき、今後の取組について議論を重ねる必要がある。</p>
宮城交通 鈴木委員	<p>相澤委員のご質問について、国や県の事業者に対する支援という趣旨であれば、欠損補助の制度がある。また、宮城県では、いわゆるDXに対する補助制度を立ち上げ、先端技術の活用による運転士不足の解消をサポート頂いている。国、県に限らず県内各自治体様々取り組まれている。その取組等を参考に、富谷市のネットワークにフィットするものをぜひ検討して頂きたい。それを実現する為の協力は惜しまない。</p>
宮城県 西城委員	<p>県内に限らず、人材不足、燃料費高騰が大きな課題である。県では鈴木委員よりあったように、AIの活用、物価高騰に関する補助金の制度に取り組んでおり、今後の検討についても課題であると認識している。</p>
東北運輸局 小山委員	<p>少子高齢化により、ドライバーに限らず人手不足が進んでいるのは行政も含めて同じ状況である。国として中東情勢の燃料高騰に関する相談窓口の開設や、地域の交通モードがより活用できるよう地域交通法の改正等の対策を進めている。バスの再編、デマンドの再編にあたり考えている運行形態等があればいつでもご相談をお待ちしている。</p>
徳永会長	<ul style="list-style-type: none"> ・市民バスの目標数値の見直しについて (P.17) <p>市民バスの利用者について、令和11年の目標値を既に令和7年で上回っている。改めて目標値の見直しは考えているのかどうか。</p>
事務局	<p>基本的にこの目標値は変えない方向性としている。現況値を上回ることを前提としながら、市民バス再編後の変化等、各年の実績の推移をお示しできればと事</p>

	務局では考えている。
徳永会長	計画上はこれで構わないが、内部的には妥当な目標値をお持ちいただければと思う。
東北運輸局 小山委員	<ul style="list-style-type: none"> ・国勢調査に基づく実績値の算出について (P. 17) <p>「3. 地域公共交通に対する満足度」については5年ごとの市民アンケートから数字を取るとのこと。また、「1. 地域公共交通の分担率」については国勢調査の10年ごとに行う調査項目での数字を取るとのことで、次回調査のタイミングが令和12年とすると、計画期間終了後になってしまう。R11の実績値はどのように算出されることとお考えか。</p>
事務局	その点については、我々も、どのようにまとめていくか悩んでいるところである。他自治体の取組状況等からもご意見いただければありがたい。
徳永会長	令和12年に調査がされた後、恐らく結果が出てくるのは令和13年であり、かなり後付けになってしまう。それに代わる数値としてアンケート調査等、他の形を検討する必要があると考えている。
(その他質疑・応答なし)	